

白旗神社

この黒漆が塗られた神社には、5枚の笹の葉と3輪のリンドウの花が金彫細工で装飾的に配されています。この意匠は、初の武士主導の中央政権である鎌倉幕府と鶴岡八幡宮の生みの親である源氏の家紋です。源頼朝（1147-1199）とその息子の実朝（1192-1219）は、それぞれ鎌倉幕府の初代と3代将軍で、神としてこの社に祀られています。2人はもともと、死後に鶴岡八幡宮の別々の社に祀られていました。これらの2つの社が1888年に合祀され、ここに白旗神社が創建されました。白旗という名前は、源氏が戦で用いた旗にちなんだもので、頼朝の神号である白旗大明神の語源になっています。人々は、天下を勝ち取った武士であり、名高く高貴な人であった頼朝に対して、必勝や学業成就を願って祈ります。また、実朝は芸術や文学の才能が有名です。